



おくすり通信

No. 67 带状疱疹

こんにちは、薬剤科です。带状疱疹ワクチンを定期接種にする検討が進められています。带状疱疹はどのように発症するのか、带状疱疹を予防する必要性、予防に用いるワクチンについて説明します。

《带状疱疹とは》

带状疱疹は水痘に罹った経験がある人が発症します。水痘带状疱疹ウイルスに初めて感染すると「水痘」を発症し、治癒した後もウイルスは神経節に潜伏します。加齢、疲労、ストレス等の原因で免疫が低下するとウイルスが再活性化し、神経が分布している皮膚に「带状疱疹」(带状疱疹の痛みを伴う皮疹)を発症させます。

带状疱疹が治った後にも、「带状疱疹後神経痛」と呼ばれる痛みが見られることがあります(50歳以上では带状疱疹を発症した人の2割程度)。带状疱疹には治療薬がありますが、带状疱疹後神経痛には根本的な治療法はなく、強い痛みが数ヶ月、数年残ってしまうこともあります。

带状疱疹になると、带状疱疹の症状だけでなく带状疱疹後神経痛の長引く痛みが辛いものとなります。带状疱疹の発症を予防することが带状疱疹後神経痛を予防する方法になります。

《带状疱疹予防としてのワクチン》

带状疱疹の予防として使用できるワクチンに、乾燥弱毒生水痘ワクチン(水痘ワクチン)と乾燥組換え带状疱疹ワクチン(シングリックス)の2つがあります。施設によって値段の設定は異なりますが、シングリックスの方が高価になります。その他の特徴も表にまとめています。

	水痘ワクチン(带状疱疹予防)	シングリックス
ワクチンの種類	生ワクチン 水痘ワクチンは	不活化ワクチン シングリックスは
発症予防効果 50歳代	69.8% ・副作用の頻度が低い。	96.6% ・接種可能者の範囲が広い。
効果持続期間	5年 ・値段が安価。	9.6年 ・効果が優れる。
接種回数、間隔、方法	1回、皮下注	2回、2ヶ月間隔、筋注
接種対象者	50歳以上	50歳以上、罹患リスクの高い18歳以上
接種不適当者	発熱、重篤な急性疾患、アナフィラキシー、妊婦、免疫機能に異常がある疾患、免疫抑制を来す治療を受けている者	発熱、重篤な急性疾患、アナフィラキシー
併用禁忌薬	ステロイド、免疫抑制剤	なし
併用注意薬	輸血、ガンマグロブリン製剤、他の生ワクチン	なし
副作用(10%以上)	注射部位：発赤 44.0%、掻痒感 27.4%、熱感 18.5%、腫脹 17.0%、疼痛 14.7%、硬節 13.5%	注射部位：疼痛 79.1%、発赤 37.4%、腫脹 24.2% その他：頭痛 28.3%、筋肉痛 36.9%、疲労 34.6%、悪寒 21.4%、発熱 16.7%

疾病又は治療により免疫不全の者、免疫機能低下の者、免疫機能低下の可能性のある者、その他医師が必要と認めた者。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。